

6年「日本とつながりの深い国々」にプラスワン

(教科書では『小学社会6下』p.38～61)

6年「日本とつながりの深い国々」の小単元は、児童によって調べる国が異なる複線型の指導計画で学習する。児童の興味・関心を生かせる反面、学習状況の評価が難しく、個々のつまずきに対応できないことも想定される。

ここでは、「つかむ」段階での関心を高め、学習の見通しをもたせるプラスワンと、「調べる」段階での表現活動と協働的な発表活動のプラスワンを紹介していく。

1 「つかむ」段階に、調べる視点を考える活動をプラスワンする

(1) オリエンテーションの写真から共通に調べる視点をつくっていく

教科書 p.38・39 の単元のオリエンテーションには、様々な国の子どもたちの姿が載せられている。時数が足りなくなりがちな6年生では、このページを活用しないケースも考えられるが、それではもったいない。このページから、日本とつながりの深い国々の生活を調べる視点を考えることができる。

- T) 「さまざまな暮らし」の写真を見て、違いを見つけましょう。
- C) 子どもたちの着ている服装が違います。
- T) どうして服装が違うのでしょうか。
- C) 国によって気候が違うから。
- C) 北の方にある国は厚着をしていて、南の国は薄着をしています。
- C) エジプトは暑いけれど、長袖を着ています。
- C) 文化や宗教の違いも関係があると思います。

それぞれの写真から違いを見つけ、その理由を考えさせることで、暮らしを調べるには「衣服」「気候」「地球上の位置」「文化・宗教」といった視点到に注目する必要があることを、子どもたちから引き出すことができる。

(2) 日本とつながりの深い国を考える

教科書 p.40 には、日本と外国とのつながりを表す円グラフが出ている。この資料を見せる前に、子どもたちに既習の知識を使わせる機会をプラスワンするといひ。

- T) 日本と関係が深い国というと、どんな国があるでしょうか。
- 子どもたちはこれまでの学習や既宧の知識を使って、次の国名を挙げることだろう。
- C) 中国・韓国・アメリカ・オーストラリア・ブラジル
- サウジアラビアは、教科書では調べる対象に加わってはいるが、子どもからは出にくいことが予想される。ここでは、無理に加えずに、あとで加えればいい。
- T) それぞれの国と日本は、どのようなつながりがありますか。
- C) 中国からは漢字や仏教が伝わりました。

- C) 日本は中国の製品をたくさん輸入しています。
- C) 中国の観光客が日本にたくさん来て、「爆買い」をしています。
- C) キムチなど、韓国の料理は日本でもたくさん食べられています。
- C) アメリカでは日本の野球選手が活躍しています。
- C) ブラジルは、サッカーのワールドカップやオリンピックの会場になりました。
- C) オーストラリアからは鉄鉱石を輸入しています。
- T) 資源の輸入と言えば、石油も重要だね。石油はどここの国からの輸入が多いか知っていますか。
- C) サウジアラビアが一番多いです。

資源の輸入に目を向けさせて、サウジアラビアも関係の深い国に加える。

このように既存の知識を使って考えさせることで、「産業」「貿易」を調べる視点に加えることができる。

ここで、教科書 p. 40 の資料を見せ、「アメリカ」「中国」「韓国」「ブラジル」「サウジアラビア」「オーストラリア」との関係が深いことを確認していく。

T) これらの国の人たちは、どんな暮らしをしているか知っていますか。

子どもたちは既習した知識を使って「日本との関係」は言えるものの、「生活」については未習のため、それぞれの国の人々がどんな生活をしているかについてはほとんど知らないことが多い。そこで、

日本とつながりの深い国の人々は、どのような暮らしをしているのだろうか。

と学習問題を設定し、調べたい国を決めさせる。

(3) 共通して調べる視点をつくる

調べる国が決まったら、共通して調べる視点を決める。

これまでに出てきたのは次の視点。

- ①気候や地形 ②衣服 ③文化・宗教 ④産業・貿易

T) この他に国によって違うと思うことは、何かありますか。

- C) 食事が違うと思います。
- C) 住んでいる家も違うと思います。

そして、調べる視点を次のようにまとめる。

- ①気候や地形 ②衣服・食事・住居 ③文化・宗教・習慣 ④産業・貿易

2 調べたことを表現する方法をプラスワンする

(1) 情報を整理して表現するパンフレット型の表現活動

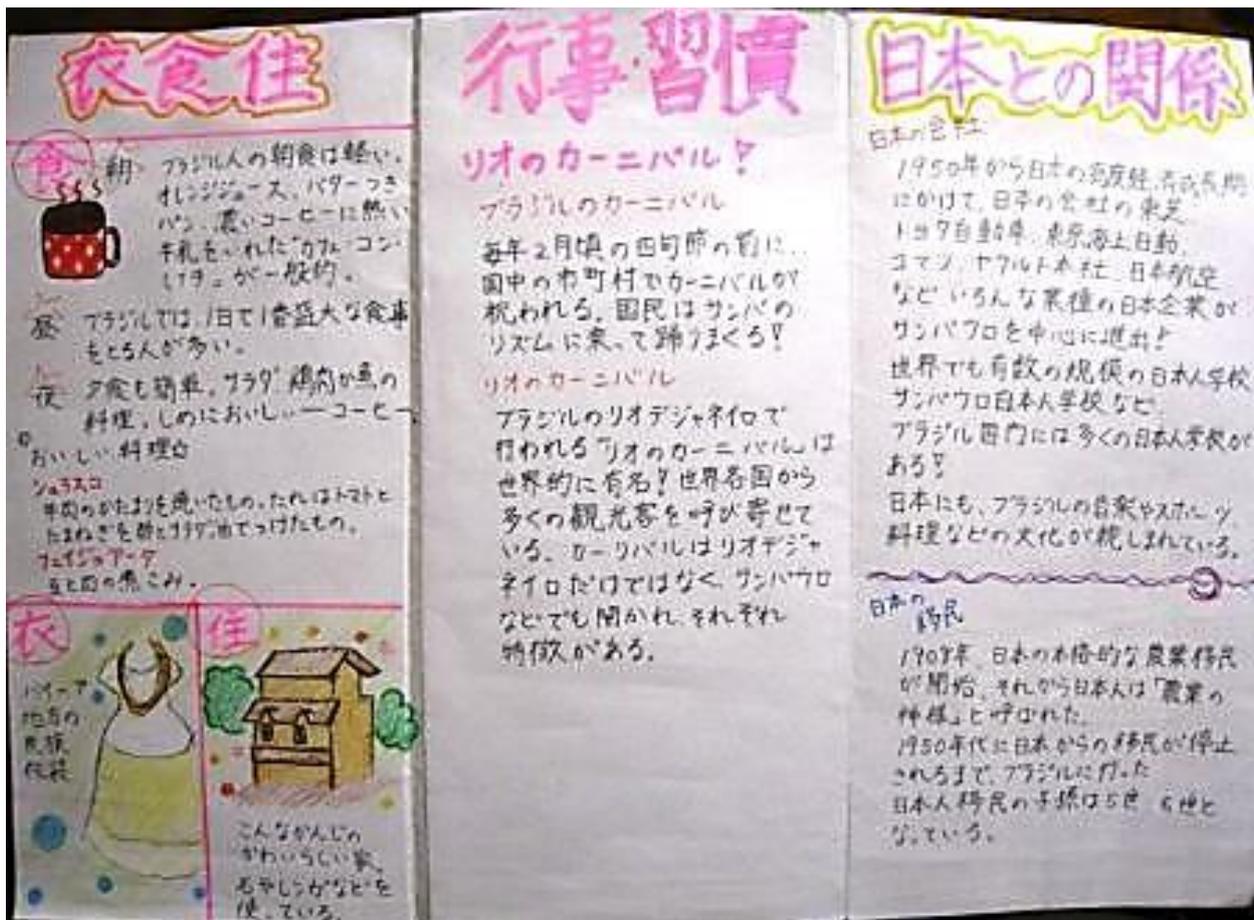
教科書では、調べたことを画用紙にまとめている。この表現方法でもいいが、枚数を制限しないと、資料の丸写しが多くなり、発表時間も長大になるおそれがある。

そこで、次のような方法はどうか。一枚の画用紙を三つ折りにし、表裏合わせて6面のパンフレット型にする。紙面が限定されるので、大切なことだけを簡潔に書くようになる。また、書く場所を指定して、形式をそろえると、評価もしやすい。

6面の使い方は以下の通り。

1面	表紙
2～5面	四つの調べる視点 (①～④)
6面	日本とのつながり

子どもの作品例を紹介する。まずはブラジル。



こちらは中国。

日本との関係

● 衣服

和服が着ている服の多くは、中国製のもので、中国からの輸入品には、電気機械と並んでせんい製品が多いです。

中国からの輸入品

● 食べ物

食べ物の中には、和食・洋食などの他に「中華料理」があります。日本では、ギョーザ・マーボー豆腐・ラーメンなど、中国独特の中華料理をたくさん食べています。

行事

中国の祝日

1月1日	元旦
1月15日	元宵节 (春節)
3月8日	国際婦人節
4月5日	掃墓節
5月1日	国際労働節
5月12日	看護婦の日
7月1日	建党節
8月1日	建军節
10月1日	国庆节
12月25日	クリスマス

中国四大料理

- 四川料理: 油と辛い味、麻婆豆腐
- 上海料理: 豚骨スープ、上海蟹
- 北京料理: 北京ダック
- 広東料理: 海鮮、炒め物

最後にアメリカ。

Fuku

アメリカの服を日本中で着る文化

歴史的政治的

1/1 ニューイヤースター

2/12 リーゴロニズムの日

3/14 ピースの日

4/1 独立記念日

5/1 (ムーンウォークの日)

10/1 コロンブスデー

11/11 退伍军人の日

12/25 クリスマス

AMERICA & JAPAN

アメリカの食べ物

- ハンバーガー
- ピザ
- ステーキ
- チキンナゲット
- アイスクリム

調べる段階の途中で、お互いの作品を見せ合う時間をとると、つまづいている子どもも活動の見直しができるよ。

(2) 国の特徴を表すキャッチコピーを考えて表紙にする

表紙は、その国の特徴を短く表すキャッチコピーを考えてタイトルにするとよい。

それぞれの国の特徴をとらえたキャッチコピーが並ぶはずだ。

- ・自然が豊かで資源も豊富！楽園の地， ブラジル
- ・自然いっぱい おいしいものいっぱい 楽しいこといっぱい 笑顔もいっぱい 元気もいっぱい，
ブラジル
- ・古くからの親しき仲， 中国
- ・スポーツがさかんで人種が多い国， アメリカ
- ・これからも貿易よろしく大切な国， アメリカ
- ・辛いのが好き！にぎやかいっぱい でも…礼儀たさい国， 韓国
- ・イスラム教を信じ， イスラム教の教えに従って生活する国 サウジアラビア
- ・大事な石油をありがとう 石油大国サウジアラビア



3 発表する活動をプラスワンして、真剣な学び合いを促す

教科書 p. 58 では、小グループでの発表活動が紹介されている。苦勞してまとめた作品である。できれば、聞き手を変えて何回か発表させて満足感を得させたい。

ここでは、ミニポスターセッション方式を紹介する。クラスの3分の1、10人近くが同時に発表する方法だ。

事前にクラスをA、B、Cの3グループに分ける。できるだけ、どのグループにもいろいろな国の発表者が入るようにする。

まずは、Aグループの発表。発表者の前には、椅子が二つだけ置かれている。聞き手は、発表を聞きたい児童を選んで、その前に座る。発表時間は1回3分。3分以内に終わってしまったら、感想を話し合ったり、質問し合ったりする。1回目の発表が終わったら、聞き手は違う発表者のところへ移動する。このようにして、発表を3回行う。

続いて、Bグループ、Cグループがそれぞれ3回ずつ発表する。移動の時間も含めて、およそ45分間で発表会を行うことができる。

発表者は、聞き手が少ないので気楽に話すことができる。しかし、聞き手が目の前にいるので手を抜くことはない。一生懸命に真剣に説明する。そして、一回目の発表でうまくいかなかったとしても、二回目、三回目で修正することができる。

聞き手の聞き方も真剣になる。発表者との距離が近いので、よそ見はできない。発表資料が見つらいということもない。和やかな、よい学び合いができるはずだ。

この方法は様々な場面に適用できる。ぜひ行ってほしい。



(2016年1月)

あらし げんしゅう
嵐 元秀

東京都の公立小学校教師。教師歴27年。

楽しみながら、調べ・考え・表現する力が高まっていく社会科授業を旨として研究・実践をしている。